

January 19, 2021

【前日の為替概況】ドル円、反落 米休場で市場参加者が乏しく商い低調

18日のニューヨーク外国為替市場でドル円は反落。終値は103.69円と前営業日NY終値(103.85円)と比べて16銭程度のドル安水準だった。米国市場がキング牧師誕生日で休場のため、市場参加者が激減し商いは低調だったが、2時前に一時103.64円と日通し安値を付けた。ただ、前週末の安値103.62円が目先サポートとして意識されると下げ渋った。13日の安値103.53円や一目均衡表基準線と転換線が並ぶ103.50円がサポートとして意識された面もある。なお、市場では「20日の米大統領就任式を控える中、バイデン新政権の為替に対する姿勢をにらみ、主要通貨はレンジ内で推移した」との声が聞かれた。「次期米財務長官に指名されたイエレン前米連邦準備理事会(FRB)議長は19日に米上院で開かれる指名承認公聴会で、市場が決定する為替レートへのコミットメントを確認するとともに、ドル安を目指さないと明言する見通し」とのWSJ紙の報道も意識される。

ユーロドルは小幅ながら続落。終値は1.2077ドルと前営業日NY終値(1.2082ドル)と比べて0.0005ドル程度のユーロ安水準だった。イタリアやオランダ、エストニアなど欧州各国で政局不安が高まる中、22時前に一時1.2054ドルと昨年12月2日以来約1カ月半ぶりの安値を付けた。ただ、同日安値の1.2040ドルや一目均衡表雲上限が位置する1.2036ドルがサポートとして意識されると徐々に買い戻しが優勢に。5時前には1.2082ドル付近まで持ち直した。なお、イタリア議会下院はこの日、コンテ内閣に対する信任投票を行い賛成多数で可決した。下院での可決を受けて、上院では明日信任投票が行われる。

ユーロ円は7日続落。終値は125.24円と前営業日NY終値(125.56円)と比べて32銭程度のユーロ安水準。欧州の政治情勢が不安定化していることなどが相場の重しとなり、22時頃に一時125.09円と昨年12月1日以来の安値を付けたものの、NY時間の値幅は非常に小さかった。市場関係者からは「米国市場が休場だったうえ、21日の欧州中央銀行(ECB)理事会を控え様子見ムード」との声が聞かれた。

【本日の東京為替見通し】ドル円はレンジ抜けだせず、イエレン氏公聴会には要注目

本日のドル円もレンジ取引となるか。昨日は米市場がキング牧師誕生日のため休場だったこともあり、ドル円は30銭にも満たないレンジ取引になった。本日も東京時間は主だった経済指標の発表や、要人の講演などもないことで大きな値動きを期待するのは難しいだろう。

リスク要因としては、あと任期1日に迫ったトランプ米大統領と、バイデン次期大統領の動向か。トランプ大統領は19日に100人近くの恩赦や減刑を発表すると予想されている。恩赦や減刑では為替市場が動意づくのは難しいだろうが、20日の正午の任期終了まで何をしでかすか分からないことで警戒は怠れない。また、バイデン次期大統領の動きも注目される。昨日の東京時間午前に、就任日に「カナダのアルバータ州と米国のネブラスカ州を結ぶキーストーンXLパイプラインの建設の中止を命じる」と報道され、カナダドル売りになった。この件に関してはオバマ政権時代に反対していたものが、トランプ政権に翻り、再び中止になるなど米国の政治に右往左往しているが、脱原油を目標としている新政権が政権樹立後に矢継ぎ早に様々な政策実行を指示し、それにより為替市場も反応することはありそうだ。

ユーロの値動きも昨日は限られたものとなった。コンテ首相に対する信任投票が賛成多数で可決したこと、独与党・キリスト教民主同盟(CDU)の新党首にメルケル路線と同じ中道派のラッシュト氏が選出されたことなど、先週懸念されていた政治不安が若干解消されつつあることはユーロにとってはポジティブだ。ただし、ロシアの野党勢力の指導者ナワリヌイ氏が療養先のドイツからロシアに帰国した直後、空港で拘束されたことで、欧州各国がロシアを非難していることもあり、ロシアをめぐる欧州不安が高まっていることは懸念材料となりそうだ。

上述の通りアジア時間には主だった経済指標の発表はないが、欧米に入ると急に市場が動意づくことには警戒したい。日本時間19時には1月の独およびユーロ圏のZEW景況感指数が発表される。市場予想平均は60.0となっているが、変異種感染により欧州各国が規制を強化していることで、予想よりもネガティブな結果になった場合は市場の反応が大きくなりそうだ。

また、NY入り後にはバイデン政権の財務長官に指名されているジャネット・イエレン氏の承認公聴会が開かれる。昨日既に「ドル安を推進するのではなく、為替は市場が決定する」などと報じられていることで、為替についてのサプライズはないか。しかし、今後の財政政策や金利動向について予想外のことに言及した場合は、米金利の動きに連れて為替市場も大きく動くリスクには注意を払いたい。

【本日の重要指標】 ※時刻表示は日本時間

<国内>

特になし

<海外>

○16:00 ◎ 12月独消費者物価指数（CPI）改定値（予想：前月比0.5%／前年比▲0.3%）

○16:30 ◇ 12月スイス生産者輸入価格

○18:00 ◇ 11月ユーロ圏経常収支（季節調整済／季節調整前）

○19:00 ◎ 1月独ZEW景況感指数（予想：60.0）

○19:00 ◎ 1月ユーロ圏ZEW景況感指数

○19:00 ◇ 11月ユーロ圏建設支出

○22:30 ◇ 11月カナダ卸売売上高（予想：前月比1.0%）

○22:30 ◇ 11月カナダ製造業出荷（予想：前月比▲0.1%）

○20日 03:00 ◎ ホールデン英中銀金融政策委員会（MPC）委員、講演

○20日 06:00 ◎ 11月対米証券投資動向

○欧州連合（EU）財務相理事会

○次期米財務長官に指名されたジャネット・イエレン氏の承認公聴会

20日

○08:30 ◇ 1月豪ウエストパック消費者信頼感指数

※「予想」は特に記載のない限り市場予想平均を表す。▲はマイナス。

※重要度、高は☆、中は◎、低◇とする。

※指標などの発表予定・時刻は予告なく変更になる場合がありますので、ご了承ください。

【前日までの要人発言】

18日 19:12 ザハウィ英ワクチン担当相
「英国のワクチン配布は、メーカーの生産の遅れにより遅れる可能性」

18日 21:43 マース独外相
「トルコとEU 関係にポジティブな兆し」

18日 22:24 英首相報道官
※一部のスコットランド水産業者らによるロンドンでの抗議運動について
「EU 離脱後の貿易協定は、スコットランドだけでなく英国全ての水産業にとって良い合意だった」
「水産業を支援する方策について近々説明する」

18日 22:51 独政府
「メルケル首相と欧州リーダー達は新たなコロナ変異種について話し合う」
「欧州は共同でコロナ変異種と戦う必要がある」
「ドイツの感染者数は著しく高水準」

18日 22:54 ショルツ独財務相
「コロナ封じ込めのためにロックダウン(都市封鎖)の延長が必要」

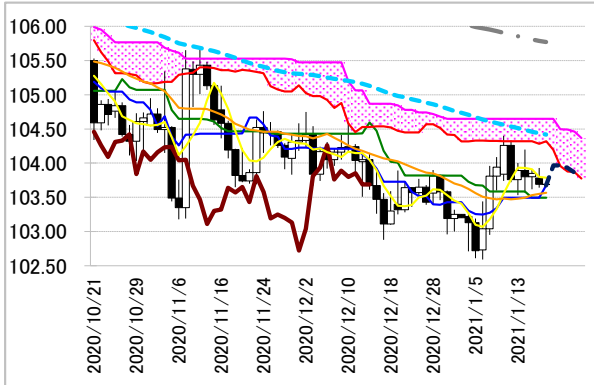
18日 23:42 ゲオルギエバ国際通貨基金(IMF)専務理事
「各国は財政支援を早期に撤回すべきではない」
「コロナ感染再拡大による世界経済の不確実性の高まりを認識すべき」

19日 00:00 ジョンソン英首相
「英国は非常に強力な経済回復を実現することができる」
「どの国よりも経済的な投資を促進してきた」
「水産業界の懸念を理解している」

19日 03:29 独経済省報道官
「ノルドストリーム2 建設に関わるロシア船舶に対する米国の制裁発表を遺憾ながらも注視する」

※時間は日本時間

〔日足一目均衡表分析〕



<ドル円=戻り試すのは遅行スパンが買い示唆へ転じた後か>

上影小陰線引け。一目均衡表・転換線は、昨日まで 103.50 円で一目・基準線と重なって横ばいで推移して下値余地を限定していたが、本日 103.68 円へ上昇。同線とともに、一目均衡表・雲の抵抗を試す相場展開となるか。

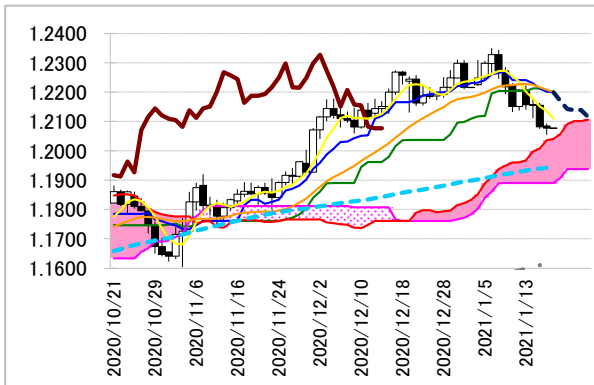
ただ、一目・遅行スパンは同指標付近のローソク足を依然として下回っており売り示唆のまま。まだ、14日高値などの節目付近で失速し、雲に届かない展開も想定できる。戻りを試すにしても、日柄の経過とともに遅行スパンが買い示唆へ転換してからかもしれない。

レジスタンス 2 104.65(日足一目均衡表・雲の上限)

レジスタンス 1 104.20(1/14 高値)

前日終値 103.69

サポート 1 102.95(1/7 安値)



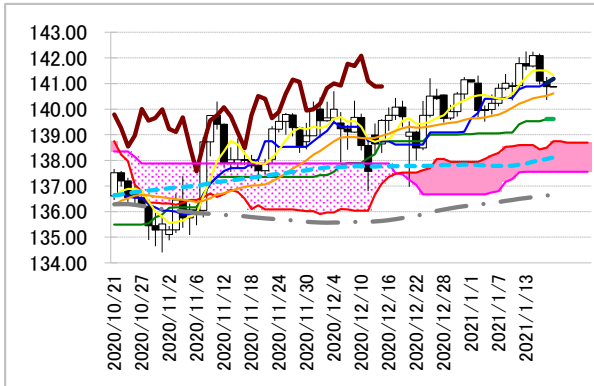
<ユーロドル=雲上限付近で下げ止まりのポイント探る>

下影小陰線引け。一目均衡表・雲の上限までの下値余地を探る展開となった。一時 1.2054 ドルと、昨年 12 月 2 日以来の水準まで下落している。本日 1.2040 ドルに位置する雲の上限前後で下げ止まりのポイントを探るとみるが、早急に戻ることができるか不透明。1.22 ドル台で重なって推移していた一目・転換線と基準線のうち、転換線は本日 1.22 ドル割れとなり、今後も低下が進む見込み。同線に反発の値幅が限定される可能性がある。

レジスタンス 1 1.2132(1/11 安値)

前日終値 1.2077

サポート 1 1.2011(2020/9/1 高値)



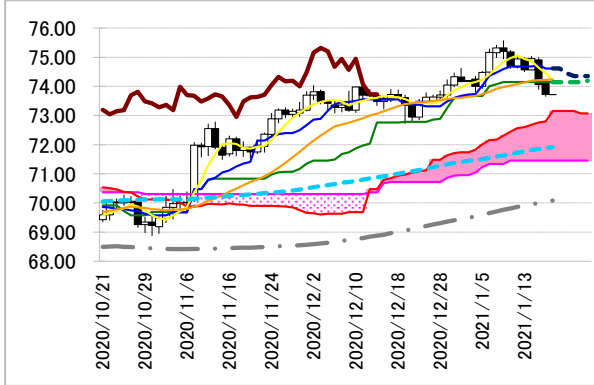
<ポンド円=転換線と同様に 21 日線も割り込むか>

下影小陰線引け。141.02 円へ切り上がった一目均衡表・転換線を下回った。同線は本日 141.18 円へ上昇。さらに回復が困難になる。140 円台で上昇中の 21 日移動平均線を下回る水準で下げ渋って戻したものの、反発力が限られており、本日 140.61 円前後で上昇中の同線を、転換線付近の動きと同様に徐々に割り込んでいく展開が想定できる。下押しが進んだ場合、139 円台の一目・基準線付近が下げ渋りのポイントとなるか。

レジスタンス 1 141.53(1/13 安値)

前日終値 140.88

サポート 1 140.34(1/11 安値)



<NZドル円=転換線の先行きは下値の雲試す展開を示唆>

陰線引け。下抜けた一目均衡表・基準線 74.15 円付近からの動きが重くなりそう。さらに一目・転換線が基準線を割り込んで売り示唆へ転じることになるか。一目・雲へ突入する下向きの流れを想定する。

レジスタンス 1 74.42(1/6 安値)

前日終値 73.73

サポート 1 73.34(ピボット・サポート 2)

